

TAC 電験三種講座

入江先生からのメッセージ

23.07.25



本試験CBT方式 受験レポート

①筆記とCBT間での難易度の違い

出題のレベルとしては基本的に大きな違いは無い印象でした。
CBTだから合格しやすい・しにくいということは無く、
従来通り、インプット・アウトプットによる学習を行う必要があります。

②機器や電卓(テンキー)の操作仕様は難しくなかったか

初めにログインIDやパスワードを入力した後は、
画面の指示に従って進めるだけになるので、
PCの操作などに慣れていない方にとっても、それほど難しい要素は
ないかと思います。

ただ、PC上で使用できる電卓やペン機能については、
使い勝手自体はあまり良くないので、自前の電卓の使用、
受験時貸し出されるメモ用紙とボールペンを使用した方が、
ストレスがないかと思います。

PC上のペン機能は選択肢を消す程度であれば便利だと思います。

③その他受験する上で気をつけた方がいいと感じた箇所

上記の通り、やはりCBT独自のPCの操作性・環境であったり、
問題を一通り解いた後、見直しをする際、問題のロードに若干時間
(1秒程度?)がかかるので、いずれも慣れるまでは細かいストレスが
あるのが気になりました。

TAC 電験三種講座

入江先生からのメッセージ

23.07.25



本試験CBT方式 受験レポート

→続き

また、理論の問題などで回路図や図が提示されている場合、回路図に情報を記入する際、用紙に一度回路図を転記してから解き始めることになったり、用紙が足りなくなった場合は受付の方を呼んで追加の紙を貰う間もタイマーはストップされないといった感じで、細かくタイムラグが発生するので、特に計算の多い理論・機械科目をCBTで受験する場合は、こういった部分を考慮して受験する必要があります。

今のところ、CBT方式のメリットとして感じたのは、

- ・科目ごとに受験日を変えられる
- ・マークミス(塗ミス)が発生しない
- ・周りの環境(他の受験生など)の影響を受けない
- ・得点は受験後すぐに表示される

といった点が挙げられますので、

全科目受験の方や、残りの科目が電力や法規といった計算問題が少ない科目の方、本試験会場の雰囲気のにまれやすい方などはCBTを受験するのも手ではあるかと思います。
